



+ + + +

消化管内寄生虫の検査

糞便内抗原スクリーニングパネル Fecal Dx® リファレンスガイド

IDEXX

年に2回はスクリーニング検査を

Companion Animal Parasite Council(CAPC)のガイドラインでは、消化管内寄生虫を幅広く確実に検出するために、糞便内抗原検査を行うことを推奨しています¹⁻³。この糞便内抗原検査では、他の方法では見逃してしまうかもしれない感染を検出することができます⁴。

飼い主様が知っておくべき、身近に潜む危険と推奨事項

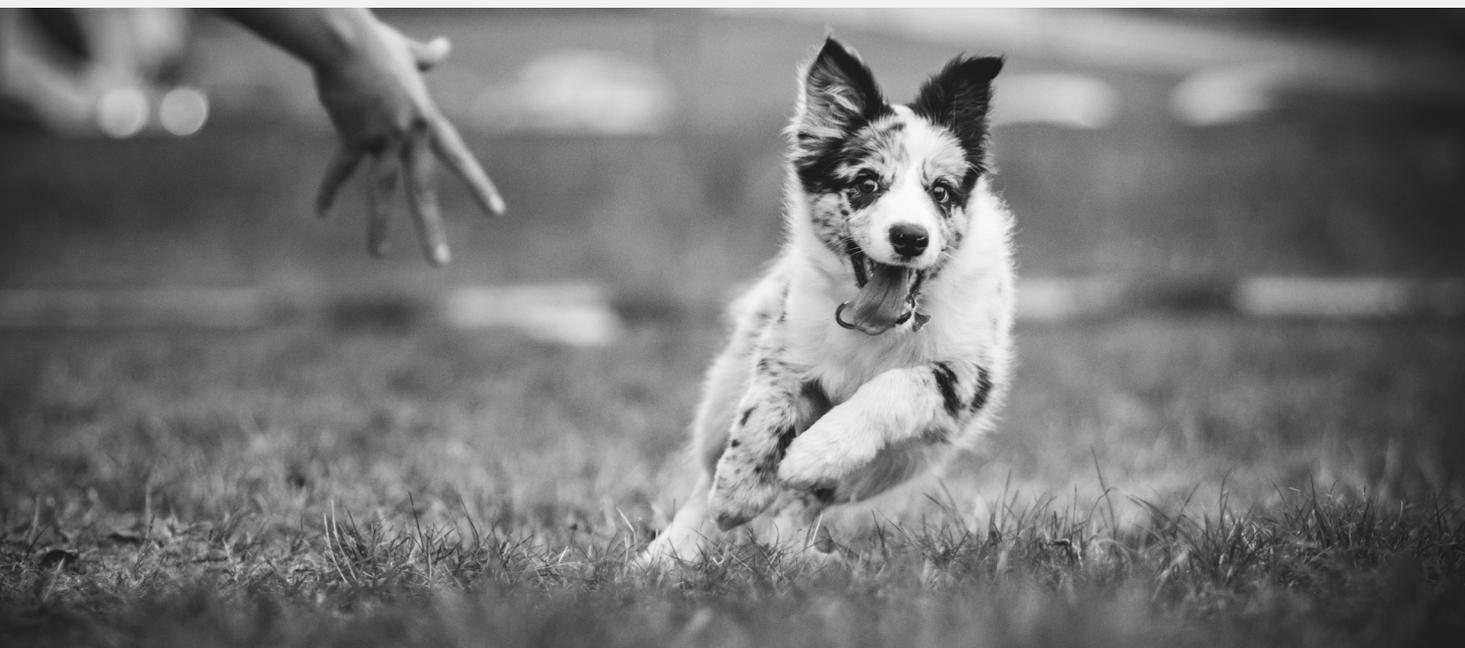
CAPCは、最低でも成犬・成猫には年2回、1歳未満の子犬・子猫には年4回の糞便スクリーニング検査を推奨しています。動物の健康状態や飼育形態によっては、より頻回の検査が必要になることもあります。動物を屋外に出すことのリスクを飼い主様に伝えましょう。寄生虫の中には皮膚や足元から侵入してくるものもいます。また、動物がグルーミングや授乳、汚染された土壌や糞便を食べることで寄生虫を飲み込んでしまうこともあります。さらに、動物から人間に伝染る感染症もあることを飼い主様に理解してもらう必要があります⁵。

広域スペクトラム駆虫薬の通年使用を推奨

消化管内寄生虫、犬糸状虫、ノミ、ダニに有効な駆虫薬は、動物を守るだけでなく、飼い主様にとっても大きな価値があります。1年を通して動物を守る必要があることを、飼い主様にしっかり理解してもらいましょう⁵。

Fecal Dx 抗原検査による早期発見、早期治療

CAPCでは寄生虫感染の診断に糞便内抗原検査を取り入れ、より早期に治療し、駆虫薬の適正使用を推奨しています¹⁻³。糞便内抗原検査は、プレパテント・ペリオドや単性寄生にも対応できるため、有効な寄生虫対策となります。

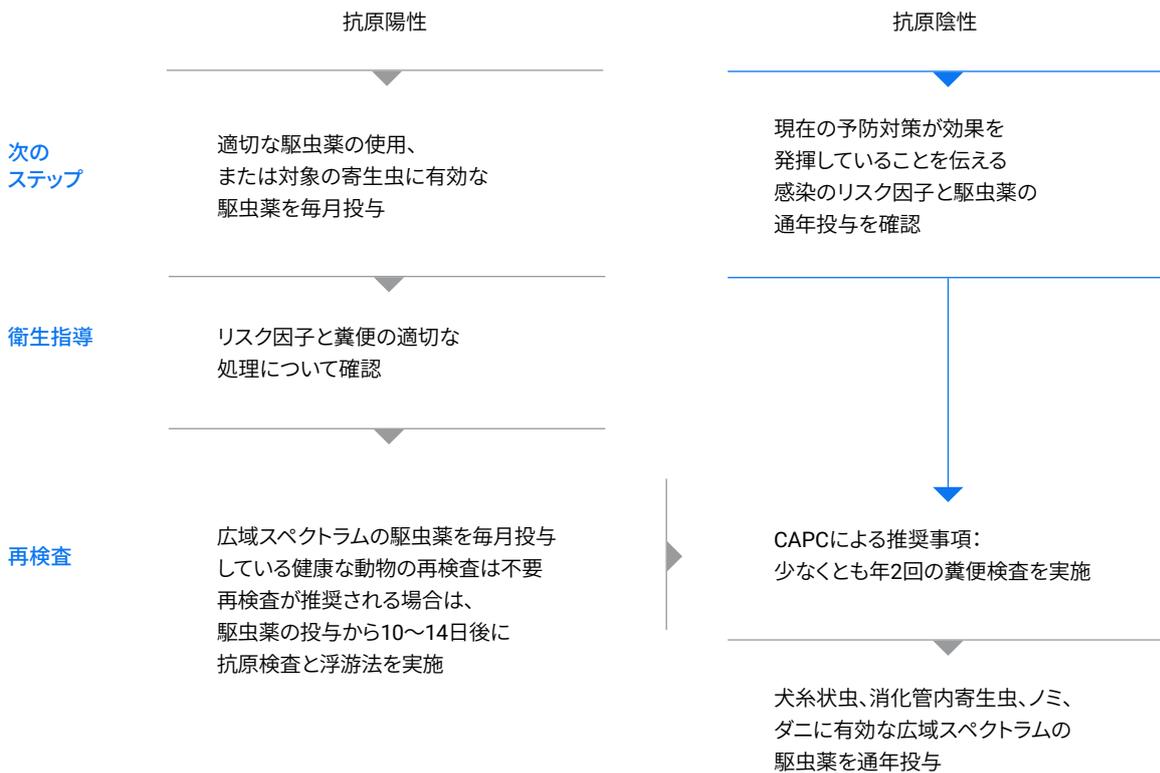


健康な犬猫の糞便スクリーニング検査

Fecal Dx® 抗原検査で、鉤虫、回虫、鞭虫、瓜実条虫、シストイソスポラの感染を確認しましょう。この検査では抗原を検出しているため、検査結果が陽性であった場合は、消化管内に寄生虫が存在していることを示唆します。また、寄生虫が産卵をしていない時期や単性寄生であっても、寄生虫感染を確認することが可能になります¹⁻³。

Fecal Dx 抗原検査プロトコル

以下のプロトコルを使用して、Fecal Dx 抗原検査の検査結果を基に次のステップを決定しましょう。



ご存じですか？

抗原検査の結果が陽性、もしくは虫卵や片節、オーシストが検出された動物には治療を検討してください。

抗原陽性であるにもかかわらず、虫卵や片節が検出されない場合は、以下の理由が考えられます。

- + プレパテント・ピリオドのために、虫卵や片節、オーシストが検出されない
- + 単性寄生
- + 間欠的な虫卵や片節、オーシストの排出

抗原陰性であるにもかかわらず、虫卵や片節、オーシストが検出される場合は、以下の理由が考えられます。

- + 寄生虫に汚染された糞便の摂取（食糞）
- + 抗原量が検出限界以下

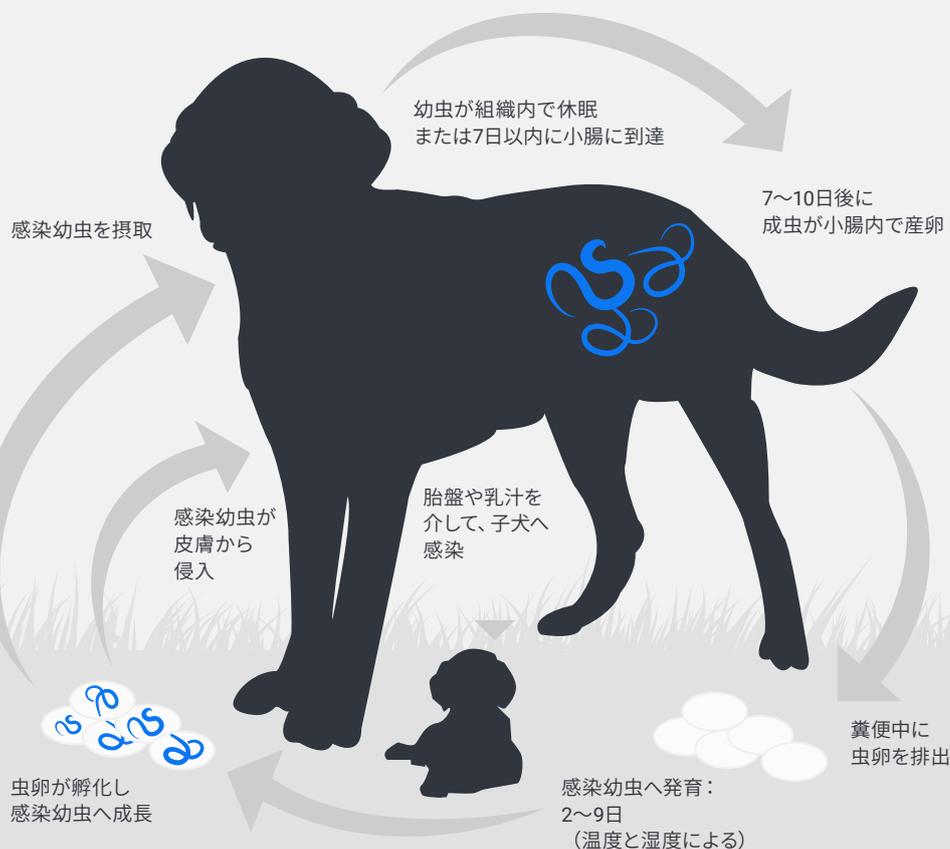


鉤虫：

感染から虫卵の排泄まで¹

犬鉤虫 *Ancylostoma caninum* の生活環

成犬におけるプレパテント・ピリオド：14～21日



ご存じですか？

- + 鉤虫はプレパテント・ピリオドが短く、幼虫のまま休眠することもあるため、駆虫薬を毎月投与している動物であっても、次の駆虫薬を投与するまでの1ヵ月間に、消化管に成虫が寄生していることがあります¹。
- + 犬鉤虫では駆虫薬に対する耐性株の存在が知られていません²。もし、駆虫薬の投与10～14日後に鉤虫が陽性となった場合は、虫卵の定量試験を実施する必要があります⁷。
- + 経乳感染によって、10～12日齢の子犬で虫卵の排出が見られることがあります¹。
- + 犬鉤虫は人獣共通感染症や再感染のリスクがあるため、成虫が産卵を始める前に発見することが重要です¹。

臨床症状

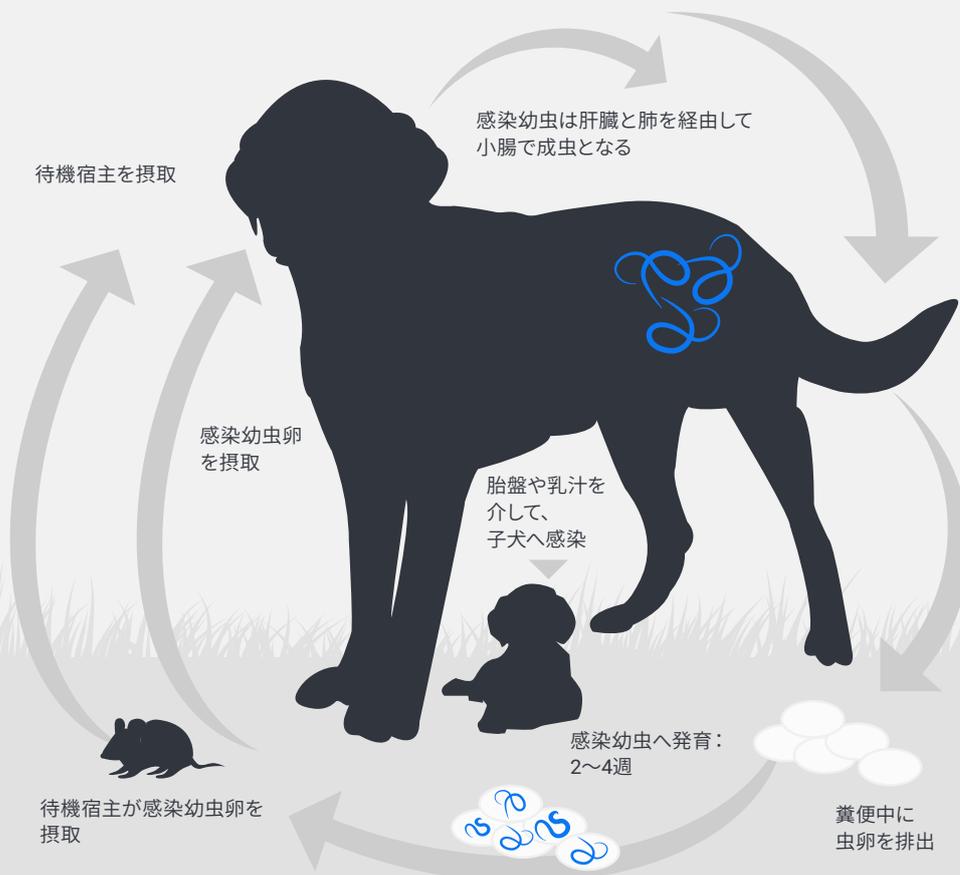
粘膜蒼白、貧血、食欲減退、発育不良、被毛粗剛、脱水、黒色タール状の下痢便、呼吸器疾患、足の皮膚病変（紅斑、掻痒、丘疹を伴う皮膚炎）などがあります。

回虫：

感染から虫卵の排泄まで²

犬回虫 *Toxocara canis* の生活環

成犬におけるプレパテント・ピリオド：21～35日



ご存じですか？

- + 回虫の雌が1日に産卵する虫卵数は約 85,000個で、厚い卵殻で覆われているため何年にも渡り外界で生存することができません。
Fecal Dx[®]抗原検査を使えば、虫卵が排出される前から回虫感染の有無を判定することができます。
- + 犬回虫は人獣共通感染症や再感染のリスクがあるため、成虫が産卵を始める前に発見することが重要です²。
- + 複数の研究から、6ヵ月齢未満の子犬の30%以上が犬回虫に感染し、虫卵を排出していることが知られています²。

臨床症状

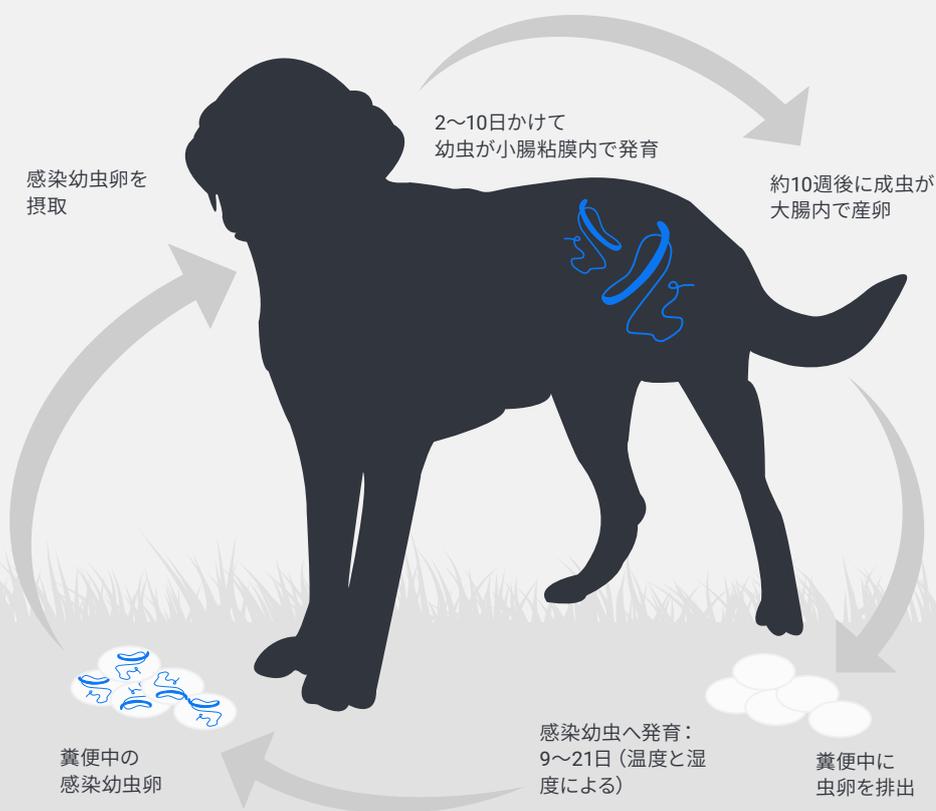
下痢、嘔吐、腹部膨満、発咳。咳や嘔吐に伴い、犬の口から虫体が吐出されることがあります。回虫感染は犬回虫によるものが一般的で、病害は1歳未満の子犬で最も強く現れます。

鞭虫：

感染から虫卵の排出まで³

犬鞭虫 *Trichuris vulpis* の生活環

成犬におけるプレパテント・ピリオド：74～90日



ご存じですか？

+ 鞭虫の雌が1日に産卵する虫卵数は約2,000個で、感染幼虫卵は数年間に渡り外界で生存することができます³。Fecal Dx[®]抗原検査を使えば、虫卵が排出される前から鞭虫感染の有無を判定することができます。

+ プレパテント・ピリオドが長いいため、若い子犬で鞭虫卵が排出されることは稀です³。Fecal Dx抗原検査であれば、プレパテント・ピリオドの期間であっても、感染動物の早期発見、早期治療をサポートします。

臨床症状

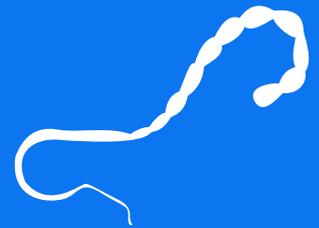
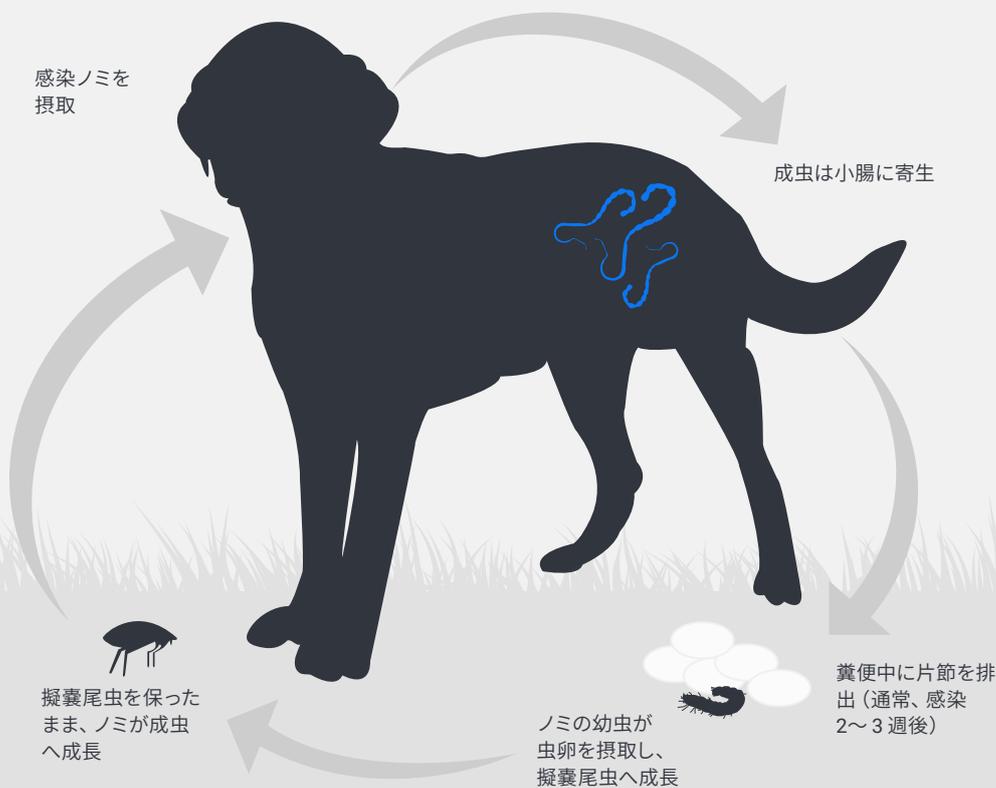
不顕性感染が多いですが、顕性化してくる場合は、下痢や粘鮮血便、体重減少、脱水、貧血などが見られます。極度の重感染を受ければ死亡することもあります。

瓜実条虫： 感染から片節の排出まで⁸

瓜実条虫 *Dipylidium caninum* の生活環

成犬におけるプレパテント・ピリオド：14～35日^{8,10}

瓜実条虫は感染ノミを摂取することで、犬や猫へ感染します。

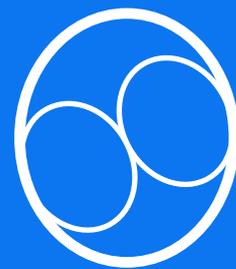


ご存じですか？

- + 瓜実条虫は成熟片節の形状が、「瓜の実」に似ていることから、瓜実条虫と呼ばれており、ノミが中間宿主となります⁸。
- + 犬や猫は感染ノミを摂取することで感染します⁸。
- + 瓜実条虫の体節（片節）1個あたり、最大25～30個の虫卵が含まれます⁸。
- + ノミの予防をしなければ瓜実条虫に再感染する可能性が高くなります⁸。
- + 犬や猫には様々な条虫が寄生しますが、そのなかで最もよくみられるのが瓜実条虫です⁹。

臨床症状

不顕性感染が多いため、臨床症状が見られないことがあります。瓜実条虫が病気を引き起こすことは稀ですが、片節通過時の刺激が、肛門周囲に掻痒感を与えることがあります。



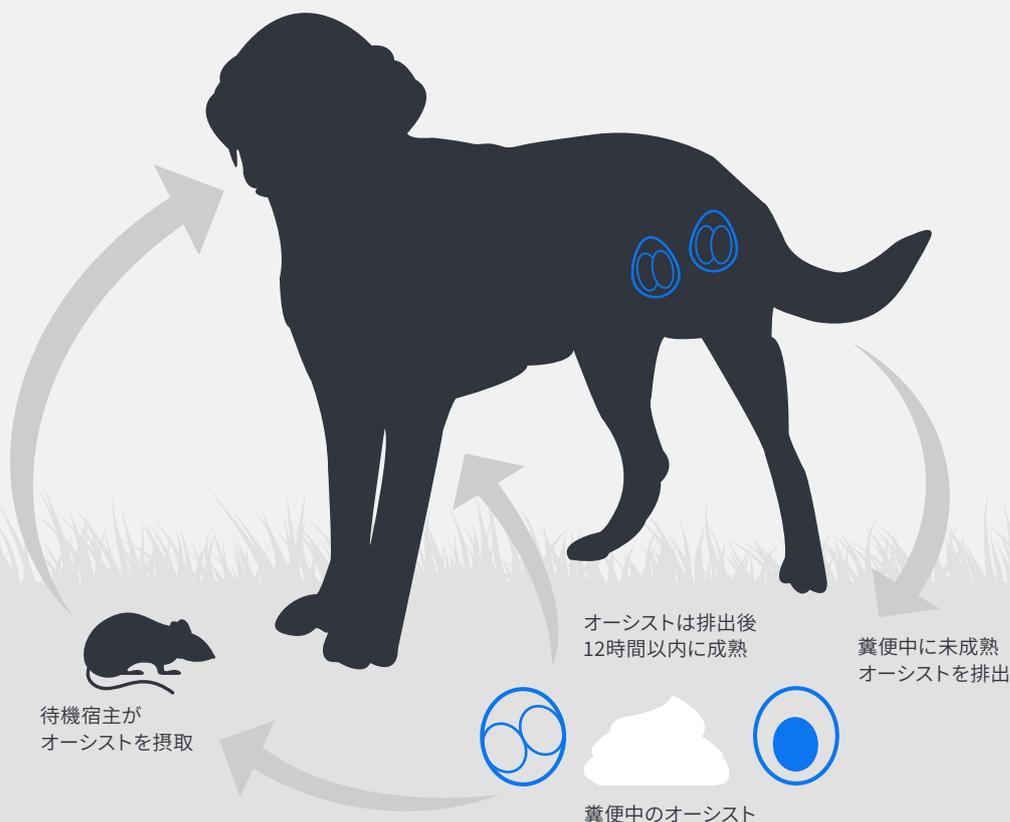
シストイソスポラ： 感染からオーシストの 排出まで¹⁾

シストイソスポラ *Cystoisospora* spp. の生活環

プレパテント・ペリオド：4～13日¹⁾

シストイソスポラは、犬や猫に寄生するコクシジウム類の原虫です。
環境中のオーシストや待機宿主を摂取したりすることで感染します。

犬が成熟オーシスト、
または待機宿主を摂取



ご存知ですか？

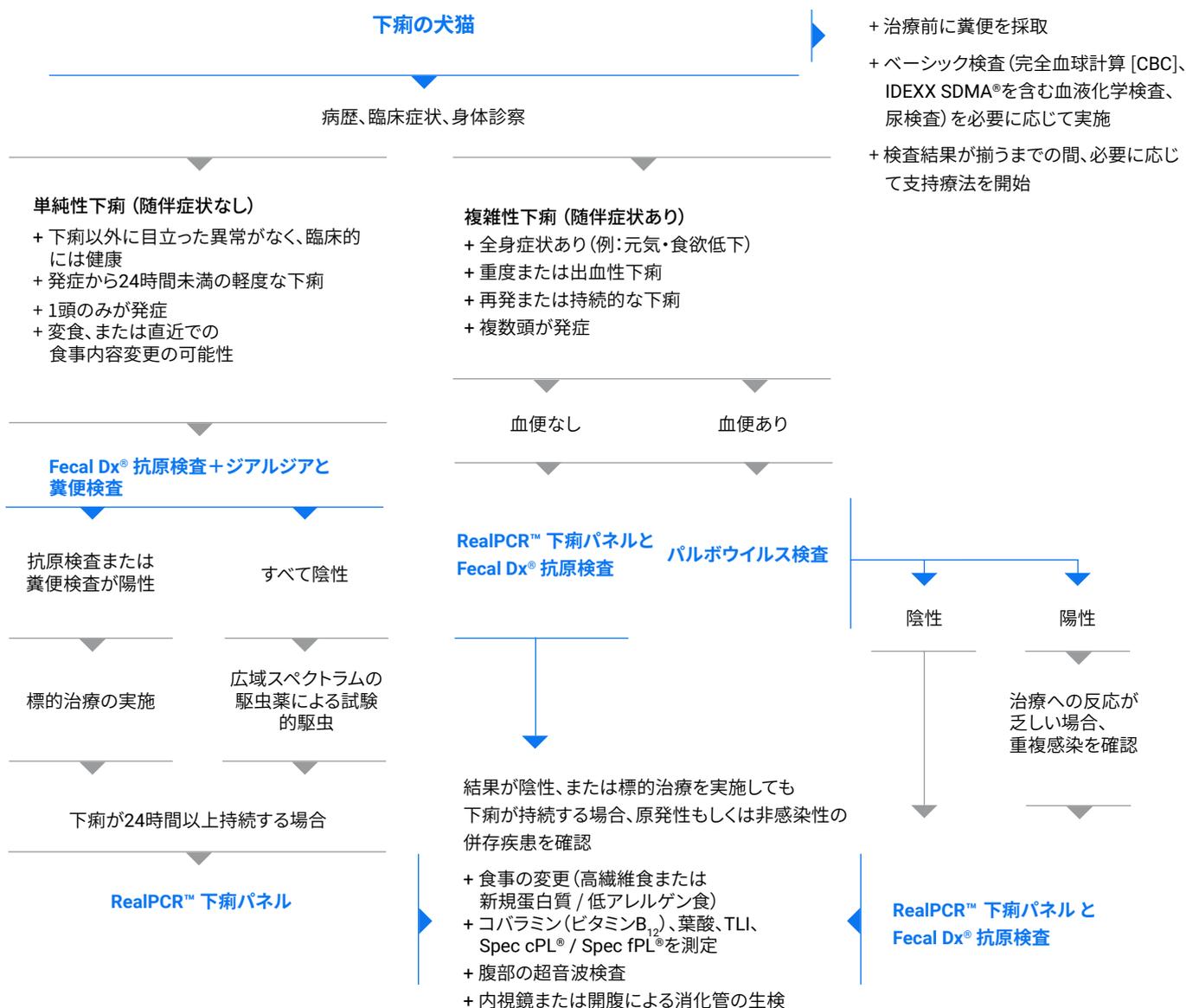
- + 湿潤な環境で、極端な低温や高温でなければ、オーシストは最大1年間生存できます¹⁾。
- + 犬や猫の糞便からは時にシストイソスポラによく似たアイメリアのオーシストが見つかることがあります¹⁾。これは偽りの寄生です。
- + アイメリアは、うさぎやげっ歯類、鳥類のコクシジウム原虫であり、犬猫が感染することはありません¹⁾。

臨床症状

健康な成犬・成猫が感染しても、発症することはあまりありません。若齢、ストレス下、免疫抑制状態の場合は、下痢、嘔吐、脱水、元気消失、食欲減退などがみられることがあります。

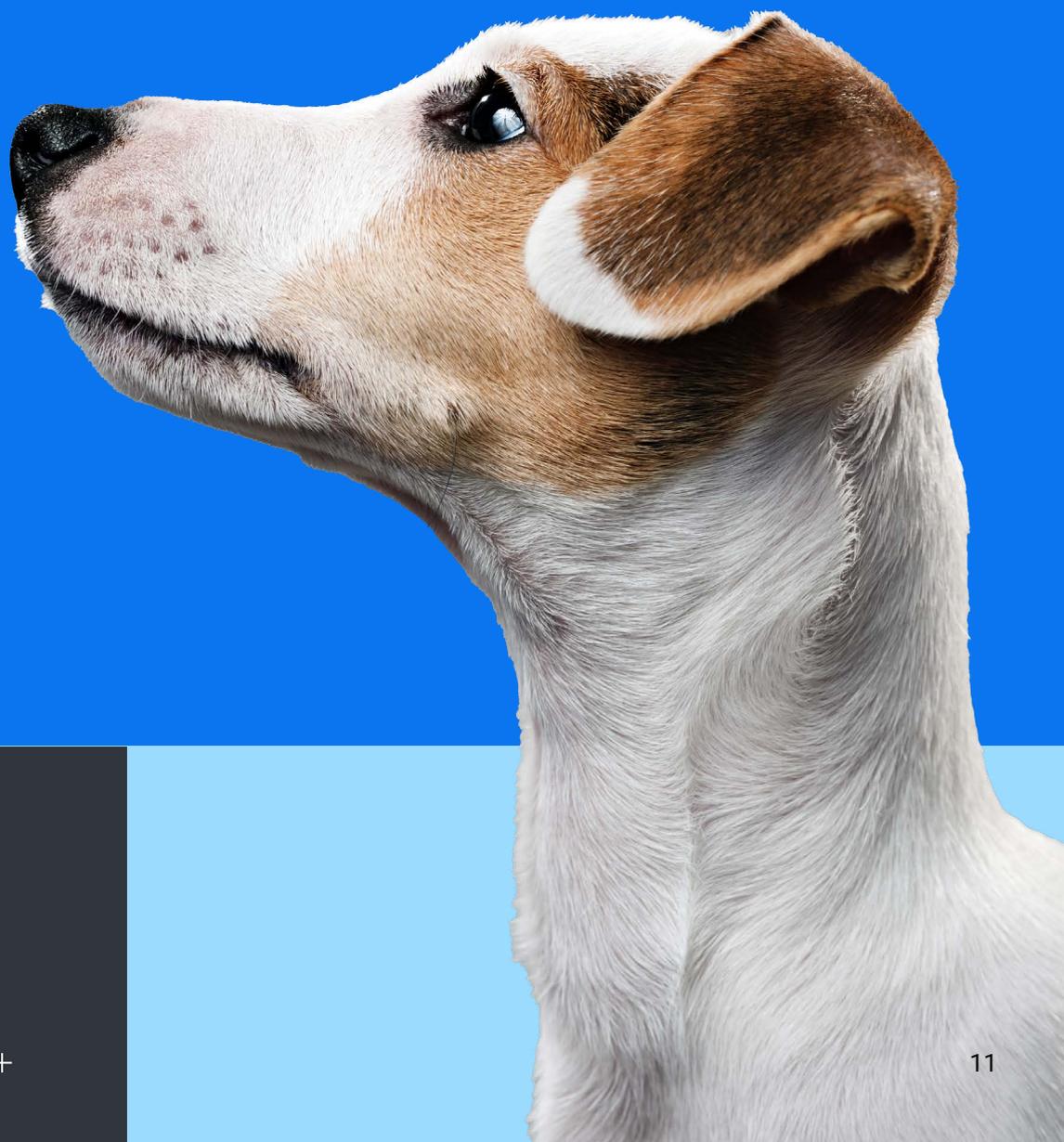
病気の犬猫の糞便スクリーニング検査

下痢をしている場合はそれが随伴症状を伴わない単純性下痢なのか、伴う複雑性下痢なのかを鑑別するために、感染症を除外しましょう。短期間の単純性下痢の場合は、Fecal Dx®抗原検査および遠心浮游法による糞便検査に加え、受託検査やスナップ・ジアルジアによるジアルジア抗原検査が推奨されます。複雑性下痢の場合は、より網羅的な検査であるReal PCR™下痢パネルが推奨されます。



ご存知ですか？

症状のある犬猫には、RealPCR™ 下痢パネルも有用です。消化管内に寄生する幅広い病原体に対応しており、ウイルスや細菌、毒素、クリプトスポリジウムのような鏡検での発見が難しい原虫の検出が可能です。



家庭で出来る 寄生虫感染の予防法

動物病院への定期来院とスクリーニング検査に加えて、CAPCガイドラインの推奨事項を飼い主様に伝えましょう⁵。

食事と水

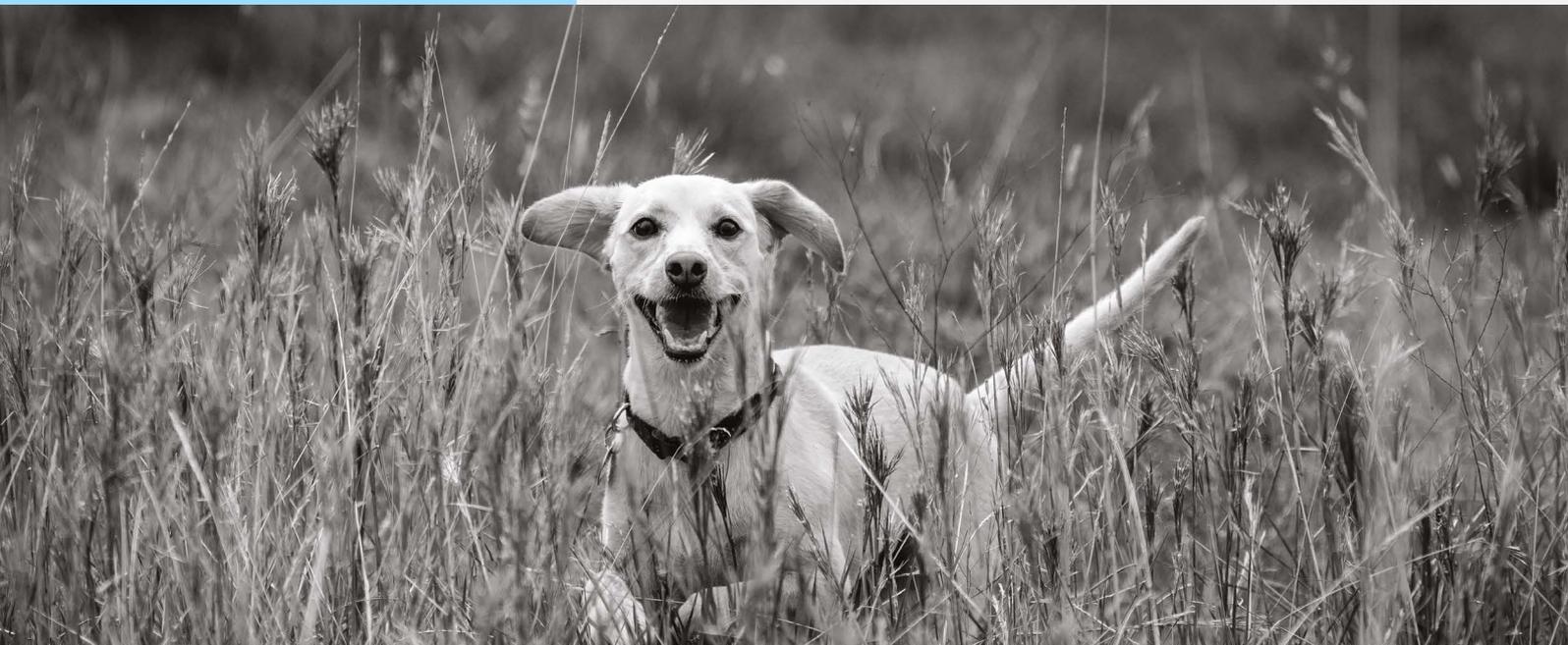
- + 犬には市販のペットフードまたは加熱調理された食品を与えるようにしましょう。
- + 生の食べ物はお勧めしません。
- + 犬が新鮮な水を飲めるようにしましょう。

屋外での活動

- + 野生動物や汚染された糞便に犬を近づけないようにしましょう。
- + 犬のリードは外さないこと、また犬がフェンスの外に出て行かないようにしましょう。
- + 猫は室内で飼いましょう。
- + 使用後の砂場にはカバーをかけましょう。

衛生管理

- + 素手で動物の糞尿には触れないようにしましょう。
- + 意図せず糞便に触れてしまった場合は、直ちに手を洗いましょう。
- + 公共の場所では、糞便をすぐに拾って処分しましょう。





引用文献

1. Companion Animal Parasite Council. CAPC guidelines: hookworms. Updated March 29, 2023. Accessed February 19, 2024. www.capcvet.org/guidelines/hookworms
2. Companion Animal Parasite Council. CAPC guidelines: ascarid. Updated September 12, 2022. Accessed February 19, 2024. www.capcvet.org/guidelines/ascarid
3. Companion Animal Parasite Council. CAPC guidelines: *Trichuris vulpis*. Updated September 12, 2022. Accessed February 19, 2024. www.capcvet.org/guidelines/trichuris-vulpis
4. Adolph C, Barnett S, Beall M, et al. Diagnostic strategies to reveal covert infections with intestinal helminths in dogs. *Vet Parasitol.* 2017;247:108–112. doi:10.1016/j.vetpar.2017.10.002
5. General guidelines for dogs and cats. Companion Animal Parasite Council website. Accessed July 13, 2022. www.capcvet.org/guidelines/general-guidelines
6. Jimenez Castro PD, Howell SB, Schaefer JJ, Avramenko RW, Gilleard JS, Kaplan RM. Multiple drug resistance in the canine hookworm *Ancylostoma caninum*: an emerging threat? *Parasit Vectors.* 2019;12(1):576. doi:10.1186/s13071-019-3828-6
7. Jimenez Castro PD, Kaplan RM. Persistent hookworm infections in dogs. *Clin Brief.* August 2020;59. Accessed February 19, 2024. www.cliniciansbrief.com/article/persistent-hookworm-infections-dogs
8. CAPC guidelines: *Dipylidium caninum*. Companion Animal Parasite Council website. Accessed February 19, 2024. www.capcvet.org/guidelines/dipylidium-caninum
9. Hall EJ, Day MJ. Diseases of the small intestine. In: Ettinger SJ, Feldman EC, Côté E, eds. *Textbook of Veterinary Internal Medicine: Diseases of the Dog and Cat.* 8th ed. Elsevier; 2017:1543.
10. Beugnet F, Labuschagne M, Vos C, Crafford D, Fourie J. Analysis of *Dipylidium caninum* tapeworms from dogs and cats, or their respective fleas—Part 2. Distinct canine and feline host association with two different *Dipylidium caninum* genotypes. *Parasite.* 2018;25:31. doi:10.1051/parasite/2018029
11. Companion Animal Parasite Council. CAPC Guidelines: Coccidia. Updated October 1, 2016. Accessed February 19, 2024. www.capcvet.org/guidelines/coccidia
12. Lappin MR. Isosporiasis. In: Sykes JE, ed. *Canine and Feline Infectious Diseases.* WB Saunders; 2014:793–796. doi:10.1016/B978-1-4377-0795-3.00082-X

© 2024 IDEXX Laboratories, Inc. All rights reserved. • 09-2690573-01
All ®/TM marks are owned by IDEXX Laboratories, Inc. or its affiliates in the United States and/or other countries.
The IDEXX Privacy Policy is available at idexx.com.

PCR testing is a service performed pursuant to an agreement with Roche Molecular Systems, Inc.